

世界の壁を突き破る好記録! 村上幸史選手

8月23日、ドイツベルリンで開催された第12回世界陸上競技選手権ベルリン大会の最終日、男子やり投げ決勝で上島町出身の村上幸史選手（スズキ）が日本人初の銅メダル獲得の快挙を成し遂げました。

日本選手権で10連覇するなど、国内に敵無しの第一人者である村上選手は、21日の予選A組に出場し、2投目で2004年にマークした自己ベストの81メートル71を大幅に更新する83メートル10を記録し、同組1位（全体では2番目・日本歴代2位）の好成績で決勝進出を決めました。

日本選手権の国際大会（五輪及び世界選手権）での決勝進出は同選手権1987年大会の溝口選手（6位）以来、22年ぶりとなりました。

23日の決勝では、1投目に76メートル01で6位に付け、2投目の力強いスローイングから放たれたやりは80メートルを大きく超え、予選で出した自己記録には及ばないものの82メートル97の好成績をマークし、念願のメダルを獲得しました。

村上選手は世界選手権と五輪を通じてこの種目で初めて日本選手として表彰台に立ちました。

「郷土の星」村上選手、おめでとうございます。これからも世界の頂点を目指して頑張ってください。

2011年の世界陸上テグ大会（韓国）、そして2012年のロンドン五輪での更なる活躍を期待しています。



夢と感動をありがとう!!